

# とちぎ国際交流

## International Exchange Bulletin

創刊号

1989年(平成元年)2月

編集発行

(財)栃木県国際交流協会

Tochigi International Association

〒320 宇都宮市昭和1-2-16

栃木県自治会館1階

Tel (0286) 21-0777

Fax (0286) 21-0951



### 栗山村川俣の三番叟

川俣の三番叟は、もともと旧暦1月20日の20日正月に行われた地芝居の幕あけに踊られた祝儀舞踊です。地芝居がすたれてからは、1月20日に行われる山の神祭り、および21日(ともに現在は、新暦)の元服式後、同じく川俣に伝わる恵比須、大黒舞とともに踊られます。踊り手には、川俣の若衆があたります。大変神聖な踊りで、踊り手が足を踏みちがえると、四方の山々の草木が枯れるともいわれています。

(栃木県指定無形民俗文化財)

## SANBASO OF KAWAMATA, KURIYAMA VILLAGE

Sanbaso is a dance which is performed on January 20th (by the old calendar) when the local theater had been opened. Since the local theater was obsoleted, it became to perform with EBISU (The god of fishermen) dance and DAIKOKU (The god of wealth) dance on January 21st after the GENPUKU (assuming

manhood) ceremony. Young men in Kawamata are selected as Sanbaso dancers. The dance is very sacred. It is said that all trees and plants will wither up if a dancer makes a false step. (This is designated as intangible cultural property by Tochigi Prefecture)

### 会長あいさつ



財団法人栃木県国際交流協会会長  
栃木県知事 渡辺文雄

近年、我が国の国際化の進展には目覚ましいものがあります。わたしたちの生活も国際的な相互依存関係の網の目の中に組み込まれ、あらゆる面で諸外国の動向と密接な関連をもつようになってまいりました。

こうした中で、各地方や地域レベルにおける国際交流活動も次第に活発化してまいりました。本県におきましても「とちぎ新時代創造計画」の中で、国際理解や国際親善を一層深めていくこととしております。

財団法人栃木県国際交流協会は、こうした国際交流活動を今後より活発に、より効率的に、より幅広く展開してまいりますために、民間と行政が一体となつて、昨年10月に設立されたところであります。

来るべき21世紀に向けた北関東の時代において、国際化する本県の新たな飛躍のために、どうぞ、この協会をご利用いただくとともに、ご助言、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### Greetings from the President of Tochigi International Association

Japan has been internationalizing very rapidly the passed few years. And our lives will become more deeply involved with other countries in every aspect of the international relations.

Under this situation, international exchanges at the community level has been growing.

The "Tochigi International Association" has been established in October, 1988 to cope with such "Internationalized" situation by offering appropriate services.

We would like to ask for your advice and your support to contribute for the new era of Tochigi prefecture.

## ようこそ とちぎへ

～県内在住の外国の方にインタビューしました。～

益子町在住

陶芸家 ジョゼ・ファロンバ氏 (ポルトガル)

### 《プロフィール》

1943年、ポルトガルのリスボン市に生まれる。リスボン美術大学卒業後、ヨーロッパ、アフリカ、アジアを旅行。1972年来日。1973年益子町の大誠窯で1年間作陶を学び、韓国で陶器を研究後、益子に戻り、須藤武雄氏に師事。1976年に築窯し独立。45歳。



### 《来日のきっかけは、どういうものですか。》

アジアを旅行中、当時益子町在住の陶芸家ゲルト・クナップー氏と出会い、焼物に興味を持ち、それから15年もたってしまいました。

### 《益子焼にはどういう印象をお持ちですか。》

益子焼は伝統のある焼物ですが、いつまでも伝統に縛りつけられていては発展はないと思います。伝統は誰かが作ろうとして作ったものではなく、その当時のいいものが残っていったわけですね。浜田庄司先生が今の益子焼のブームをつくったのも、それまでの日用品や土管ではなく、先生がご自分の夢を育てていったからだと思います。ですから私も先生がつくった益子焼の伝統を大事にしながらし新しいものを育てていきたいと考えています。

### 《どういう焼物を作っているんですか。》

益子の土で、形も色も独自のレリーフ（彫刻）を作りたいですね。色はポルトガルでよく見るベルシャンブルーといって、明るく鮮やかな色を使ってね。

《益子町に住んで陶芸をしている外国の方は、たくさんいらっしゃるでしょうけど、ファロンバさんはその中でも永い方でしょう。》

うん、そうですね。20人くらい住んでいるけど古い方だと思います。以前は、益子町の英語版観光パンフレットを作ったり、今は益子中と七井中で月に2回ずつ、放課後の英語クラブ活動を指導しています。予想外に希望者が多くてね。

### 《国際理解のためには、語学は必要だとお考えですか。》

語学はできた方が早道でしょうね。結局、言葉に習慣や文化がくっついているわけだから。中学校では外国の話をしながら、子供たちと遊びながら、楽しくやっています。

2時間近くにもわたるインタビューの間、熱心に話して下さり、また辞去する際も私たちの車が見えなくなるまで、ずっと見送って下さいました。

## こちら国際交流最前線

Tochigi International Friendship Association

(President・Mitsunobu Akiyama)

栃木国際親善友の会 (会長・秋山光庸)



1988年 新年パーティー

当会（略称TIFA・ティファ）は発足して今年で9年目を迎えます。民間の国際交流団体としては県内最古。御多聞にもれず私共の活動も時代の変遷と共にありました。ですから当然今年の活動も従来とは変わっていきます。

まだ在県外国人の少なかった昔、ややもすると孤立しがちな外国人達のコミュニケーション、サロンの場を提供するためにTIFAは発足しました。以来、パーティやお茶会、日本語教授、ベトナム難民救済などの活動を経、近年は、パーティはもちろん、ピクニック、スポーツ大会、洋書専門のにじ図書館設立後援、各語学研修を通しての文化交流サロン設立運営など様々な事業を行ってきました。

この間、年々在県外国人は増え、同時に外国人が自主的に活動する時代になりました。（新聞“Tohoku-sen”発行、にじ図書館運営、各種パーティの開催等）あえて日本人が催し物等のお膳立てをして外国人参加者を集めるために悪戦苦闘する必要はなくなりつつあります。さらに、国際親善という目的を同じくする団体間が協力し合いながら真の国際交流を広めていく時代に入っています。

私共の活動の中で、地味ながら会員を支えてきたものがあります。会報“Bulletin”の発行です。TIFAではこれを、従来のような内外の会の活動報告中心ではなく、広い国際交流のための場として、多くの人達に提供していきたいと思っています。今後、TIFA全体の活動はこれを中心に展開させます。これは、年4回の予定で、外国人・日本人みんなの“声”、いわゆる心のメッセージや外国の情報を載せていくものです。この“Bulletin”を軸にして、より広く深く、意義のある国際親善、友情交換を展開していければ、と願っています。

(文責＝広報担当・杉浦映子)

Eiko Sugiura

## 理事長あいさつ



(財)栃木県国際交流協会  
理事長 推津 弘之

このたび、地域レベルにおける国際化に対応し、より活発な国際交流活動を推進するため、昨年10月1日、栃木県自治会館の1階に財団法人栃木県国際交流協会がオープンいたしました。

御承知のように、今日、国際化の波はわたしたちの生活の中にも大きなうねりとなって押し寄せており、諸外国との関わりを意識せずにはいられない時代となっております。

これまで、「国際化」と言えば、とすると大都市や外交官等を中心とする「点の国際化」になりがちであったわけですが、近年は国民全体の広がりをもった国際化、いわば「面の国際化」の時代になってきたようです。こうした時代に対応するため、わたしたち県民一人ひとりが、国際化への意識を今後更に高めながら、世界の国々と相互理解を深めていくことが求められています。

こうしたニーズに応えるため、このたび、民間と行政が一体となって、財団法人栃木県国際交流協会を設立し、第3セクター方式で運営されることとなりましたのでよろしくお願い申し上げます。

この協会は、県民の皆様一人ひとりの国際交流に関する様々な相談等について、総合的、専門的に応じるほか、国際交流活動に必要な各種のサービスや情報を体系的に提供してまいりたいと考えております。

一人でも多くの方々に当協会をご利用いただくことを願っております。御来館をお待ちしております。

## お気軽にご利用下さい

### 〔相談カウンター〕

協会に入りますと、まず目につくのはこのカウンターです。ここでは、国際交流活動全般にわたる相談のほか、留学相談、留学生カウンセリング、ボランティアバンクの受付、図書の貸出しサービスをしています。



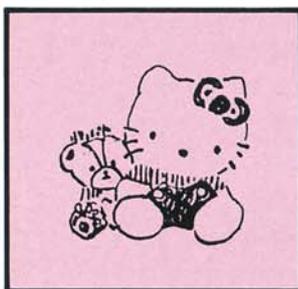
### 〔国際ライブラリー〕

相談カウンターから裏に目を向けますと、ここは国際ライブラリーのコーナーです。ここには、英文による日本文化紹介の図書やビデオ、日本語による海外ガイドブックやビデオ、さらには各国の辞典や国旗をとりそろえ、貸出しをしています。

また、衛星放送はいつでもお楽しみいただけますので、どうぞご利用下さい。



BUY YOUR DREAM AT **SANRIO** GIFT SHOP-OLIVE



SANRIO GIFT SHOP  
リトルメルヘン

**OLIVE**

〒320 宇都宮市馬場2-3-1  
☎0286-32-0003

フレッシュパワーアップ福田屋グループ

「新生活」百貨店 新しいコミュニケーションを大切にします。

SHOPPING

福田屋百貨店  
(宇都宮・真岡)  
フクダヤマート

FASHION

高感度EFF  
スベース  
デザイナーズタウン  
(12デザイナーズランド)

RESTAURANT

エスプリオ  
味喜多  
(大衆割烹)

TRAVEL & PLAY

フクダヤ  
トラベラーズクラブ  
パレス  
トップワン



**FUKUDAYA**  
DEPARTMENT STORE

宇都宮市馬場通り2-1-1  
TEL.(0286)33-1111(大代表)  
真岡市台町4146-1  
TEL.(0285)84-0111(大代表)

大きな旅も、小さな旅も—国内320、海外20の窓口—

オリジナル国内旅行プラン

**赤い船**

オリジナル海外旅行プラン

**MACH**



一般旅行業第2号

(株)日本旅行宇都宮駅旅行センター

支店長 鶴岡 章勝

宇都宮市川向町1-23 JR宇都宮駅2階 TEL 0286-35-2085(代)

栃木県庁内旅行コーナー

宇都宮市塙田1-1-20 (県庁内)

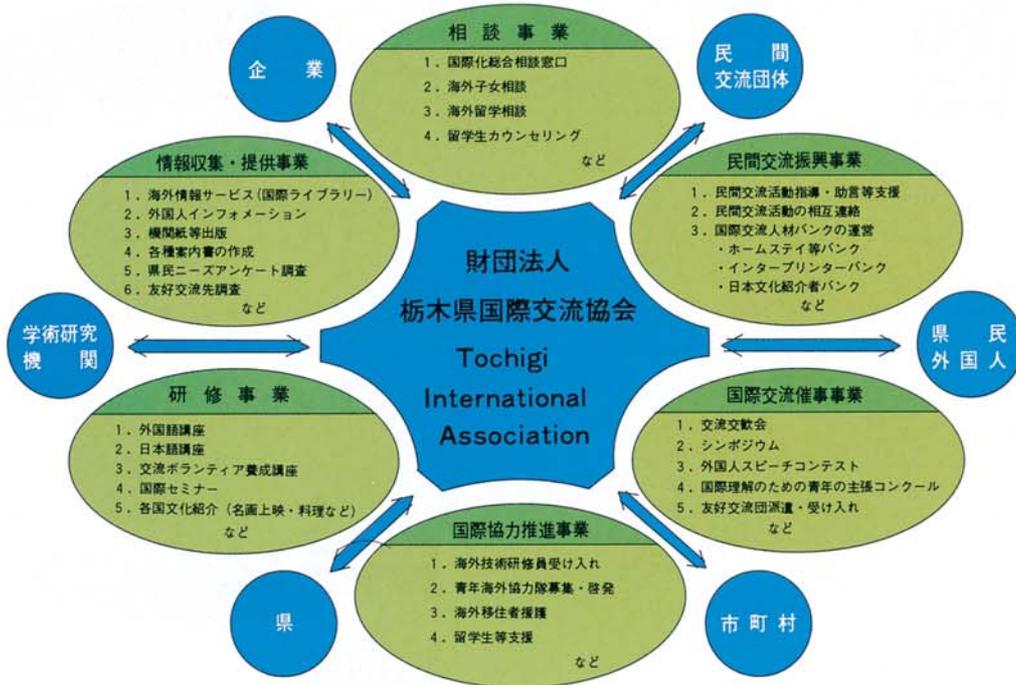
TEL 0286-23-3470

# (財) 栃木県国際交流協会は

地域の国際化に寄与することをめざし

民間部門と行政部門が協力して

次のようなサービス、事業を逐次展開していきます。



## 協会日誌

- 1988.10.1 財団法人栃木県国際交流協会オープン（栃木県自治会館1階）
- 1988.10.7 サンパウロ総合大学客員教授ベネジット・フェーリ・デ・パロース氏歓迎会
- 1988.10.17 理事会開催
- 1988.10.25 国際理解・国際親善のための高校生主張コンクール審査
- 1988.10.25 高令移住者母県招待  
～11.11（日光・東京見学）
- 1988.11.15 海外技術研修員県外視察  
～11.19（広島・京都・奈良・東京）
- 1988.11.22 福島県国際交流協会設立記念シンポジウム視察
- 1988.11.25 国際交流団体連絡会議開催（栃木県自治会館大会議室）
- 1988.11.30 日本海外協会移住家族会連合会関東甲信越静岡ブロック会議出席（茨城県・大洗町）  
～12.1
- 1988.12.5 海外技術研修員及び同受入機関合同研修会出席  
～6（栃木厚生年金休暇センター）
- 1989.1.7 お正月国際交流の集い  
（平成元年） 当日、昭和天皇崩御のため中止
- 1989.1.12 国際交流教養講座開催（自治会館）  
講師：MIGA長官・寺澤芳男氏
- 1989.2.17 協会設立記念シンポジウム（青年会館）  
基調講演：東工大教授・渡辺利夫氏

## 後援した催し物

- 1. 写真と短歌のシルクロード展（1988.11.23～27）  
主催 大野登士 他
- 2. 国際理解・国際研究スクール作文表彰と記念講演会  
主催 小山ユネスコ協会（1989.1.22）
- 3. いっくら国際交流セミナー（1989.1.20、1.22）  
主催 いっくら国際文化交流会
- 4. トーマス・リンデ ピアノレクチャーコンサート  
主催 アジア学院（1989.1.26～2.2）  
下野新聞社  
あしぎん国際交流財団
- 5. 栃木県高等学校国際弁論大会（1989.1.27）  
主催 栃木県高等学校国際教育研究協議会
- 6. 新春文化教育講座「藤ノ木古墳の謎に迫る」  
主催 栃木県日韓女性親善協会（1989.1.28）  
国際親善文化交流協会
- 7. 青年海外協力隊派遣隊員家族懇談会（1989.1.28）  
主催 栃木県青年海外協力隊OB会
- 8. 国際観光シンポジウム（1989.2.13）  
主催 日光・宇都宮国際観光モデル地区推進協議会
- 9. ラボお母さん講座「子育て あの国 この国」  
主催 ラボチューターの会（1989.2.28）

## 国際交流教養講座

去る1月12日、本県の佐野市出身で昨年7月野村証券を退職され、MIGA（多数国間投資保証機関）の長官となられた寺澤芳男氏の講演をいただきました。

当日は200名を超える聴衆で自治会館の大会議室は埋め尽くされ、大好評を博しました。

次に講演内容の要旨をご紹介します。



### 寺澤芳男氏プロフィール

昭和6年栃木県佐野市に生まれる。早稲田大学政治経済学部卒業後、野村証券株式会社に入社、昭和31年フルブライト留学生としてアメリカに渡り、以後通算17年間ニューヨークで過ごす。滞米中は米国野村証券社長及び同会長を歴任。この間、ニューヨーク名誉市民、ニューヨーク証券取引所正会員となる。昭和63年退社後、国際機関MIGA（多数国間投資保証機関）の初代長官としてアメリカで活躍中。

著書 「ウォール・ストリート日記」

「THINK BIG!」

「ウォール・ストリートの風」

## アメリカ生活17年の随感(要旨)

### —これからの日米関係と日本の役割—

#### 〈日本製品と日本の評価は?〉

どうして日本の製品がそんなにいいのかと言いますと、所謂トータル・クオリティ・コントロール、これが世界で一番いいからであります。いい製品を造っているからアメリカ人は日本の製品を買うのであります。いい製品を造っているからヨーロッパ人も日本の製品を買うのであります。アメリカの庶民の気持ちとして当然のことながら、同じ金額を出すのであれば、すぐ故障するアメリカの車を買うよりも日本の車を買いたい。何も日本を愛しているからでは全くありません。日本の製品がいいからそういうことになっているわけでありまして。ただ日本の国が太平洋の向こうから見ると、今経済大国として非常に大きくそびえ立っている。そういう日本の国に対してアメリカが或いはヨーロッパが尊敬の眼差しで見ているのかということになると、話は全く別問題であります。どちらかと言えば、いままいましい気持ちで日本を見ていると思います。どちらかと言えば成り上がり者がと言う気持ちで日本を見ていると思います。個人の人間関係と国と国との関係もそんなに変わらないのであって、あんまり一人が金持ちになったり偉くなったりすると、そねみ、ねたみ、ひがみ、というものが必ず出てまいります。

今日本は経済大国になったが故にそういう目で世界の国から見られています。だからまず我々が考えなければならないのは今後の生き方が世界の人々から愛されるまではいなくても、少しでも憎まれない、少なくとも仲間入りさせてもらえるような日本にするには、一体どうしたらいいかということでありまして。いいものを造るばかりに一生懸命になってきた。そのためにいろんな犠牲を払っています。生産第一主義ということで、教育も文化も省みず、いいものを造ろう、原料を安く買ってそれを加工して、付加価値をつけて高く売ってそして金を儲けようということしか考えていなかった。昭和20年、1945年に日本は戦争に負けて廃墟から立ち上がりました。あの時にはあ

の手段しかなかったわけでありまして、一生懸命にみんなが働いてきてそして今日の日本になったけれども、日本の経済が突出していいということが永久に続くわけではないのであります。

#### 〈世界はいまや地球経済の時代である〉

今地球のうえに50億の人間が住んでおります。その中の1億2千万人が日本人であります。その中の2億2千万人がアメリカ人であります。その中の35億人というのが発展途上国の非常にミゼラブルな、悲惨な生活をしている人達であります。地球全体が交通或いは通信、コミュニケーションそしてコンピューターという技術革新の波にのって非常に小さくなってきて、すべてのことを地球規模で考えなければいけない。当然のことながら政治も経済も地球規模で考えなければならない。誰でもが知っているそういう地球経済の時代になってきたわけでありまして。そうすると日本の経済だけが今は非常にいい。しかしこれは永久にいいということではないわけでありまして、どこかで地球経済のアジャストメント・調整をしていかないとつまづきがあるとと思います。

まずそういう発展途上国の問題、50億中の35億のミゼラブルな生活を強いられている南の国の問題、北に住んでいる先進国の我々としてはこの南の問題を何とか解決しないと、地球の上にはほんとの平和がやっとならないという認識がまずひとつあります。今発展途上国が抱えております累積債務即ち借金のトータルは1兆2千億ドルあります。これの6割というのは銀行が貸しているのであります。6割のうちの大体3分の2がアメリカの銀行で、3分の1が日本の銀行であります。だから発展途上国の問題、累積債務の問題をうまく解決していかないと大変なことになるかもしれない。累積債務の問題というのは、ひょっとしたら20世紀から21世紀にかけて人類が遭遇しつつある、最大の問題かもしれない。即ちこれは南北問題ということになり

ます。東西問題というのは幸せなことにアメリカとソ連が歩み寄っておりますので、これからの問題はむしろ南北問題かもしれません。これが基本にあるわけでございます。

### 〈世界銀行とMIGA〉

ワシントンに世界銀行という大きな銀行があります。資本金が1,770億ドル、加盟国が151か国。この世界銀行というのはどういう銀行かといいますと、発展途上国の政府に、或いは政府が保証しているプロジェクトにお金を貸す銀行であります。日本も新幹線なんかは殆ど世銀借款で、世界銀行にお世話になってお金を借りました。電力会社も鉄鋼会社も一時は随分世界銀行のお世話になりました。今でこそ貸す方にまわっておりますけれども、大変お世話になった銀行であります。

日本が戦争に負けた昭和20年この世界銀行というのがアメリカのニューハンプシャーという州のブレトンウッズというところでできました。世界銀行というのとIMF（国際通貨基金）というのができました。従ってこれをブレトンウッズ体制などという言葉でよばれているわけですが、ブレトンウッズというのは町の名前です。この世界銀行の横にIFC（国際金融公社）というのがありまして、世界銀行が発展途上国の政府にお金を貸す、民間には貸さない、これを補うためにIFCは直接政府の保証がなくても民間にお金を貸したり、また民間の株を買います。発展途上国の民間に直接お金を貸し株を買う、それがIFCであります。それでもひとつ今度出来たのがMIGAであります。Multilateral Investment Guarantee Agency 英語なんかどうでもいいんですけど、一応念のためにMIGAのMは、英語でマルチ即ち3つ以上のことをマルチと言って、多数国間と言う変な訳し方をしております。Iというのは投資、Gというのは保証、Aというのは機関というような意味ですね。そういう機関が去年の7月にできたわけです。

### 〈MIGAの理念——投資保証〉

もう1つの全く新しい考え方がでてまいりました。貧乏な友だちに金を貸すということも大変にいいことなんだけれども、長い目で見るとむしろその人達の手に職をつけてやった方がいいんじゃないかという議論であります。今ご存知のようにブラジル、メキシコ、アルゼンチンなどはさっき申し上げた累積債務の問題で金が返せなくて金が返せないどころか利子が返せなくて、利子を返すためにまたお金を借りる、金利を返すためにまたお金を借りなければならない状態というのは、大変悲惨な状態です。このようにどうやって救ったらいいかわからないような問題が今世界に起きています。だから300%とか400%のインフレ即ち1年間でお金の価値が3分の1になり、4分の1になってしまうというひどいインフレのところにお金を貸すということは非常に冒険です。

貸すんじゃなくて投資をするという考え方があります。銀行から金を借りるということは必ず2つの条件をつけないといけない。1つは利息をいくら払うかという条件、もう1つはいつになったらその借りたお金を返すかという返済の条件をつけないとだめです。あくまでも借りるわけでございます。借金証書を印刷したのつまり何年何月何日まで返します、利息は年何%払いますと印刷したのが債券であります。株はそうではありません。投資をするわけだから投資をした会社がつぶ

れちゃって、何も戻ってこなくてもこれはしょうがないわけです。その代わり株は投資をしてうまくいけば、配当金がどんどん入ってくる。或いは株式が上場されれば株の値段が高くなってどこかで売れば儲かるという逆の場合もあります。勿論そもそも借金じゃないから返ってこなくてもいい金、これがInvestmentであります。だから基本的にはMIGAの思想というのは、困った発展途上国にお金を貸すという考え方はもう古い、むしろそういう発展途上国にお金を投資しそしてその国で物を生産する、その国の人々を労働者として雇って車をつくる、カラーテレビをつくる、そういう工場をつくる。そのために投資をするという、そういう方向へもっていかうじゃないか、これが1つの考え方です。

2番目はあくまでも投資の主体は政府ではなくて民間であるということです。政府の借款ではなくて民間のビジネスマンが、民間の投資家が、自分達のお金を発展途上国に投資して、そこで土地を買い工場を建てそして発展途上国の人々を使う。2万人雇い、3万人雇って、例えば日産自動車がジャカルタで組立工場をつくる。そうすると3万人のインドネシアの労働者達はそこで教育をされ、組立のノウハウを覚えそして将来的には、徐々にジャカルタの日産自動車の工場を民族資本に移行していく。ジャカルタの人々にその株を少しずつ売って行って、10年たったら7割はジャカルタ資本になる。そういう形でインドネシアは石油とか天然ガス、そういった原材料を売って外貨を獲得する以外に自動車も売れる。カラーテレビも売れる。そして外貨をドルを稼げる、稼いだドルで借りたドルを少しずつもいいから返す。そういう方向にもっていったらどうかな、というのがMIGAの基本的な理念であります。

### 〈MIGAの仕事——保証とコンサルテーション〉

民間の企業が発展途上国に投資をするときに企業の皆さん方が何を一番危惧するかというと、カントリー・リスクであります。リスクには2つあります。1つはコマーシャル・リスク、もう1つはノン・コマーシャル・リスクであります。MIGAはノン・コマーシャル・リスク、非商業的リスク別の言葉で言えば、カントリー・リスクについて保証します。ギャランティーというのは保証という意味です。こういうことを決めたわけです。勿論保険会社のように掛金を取ります。ものによってちがいますが、例えば10億円の投資を日本の企業が中国にする。MIGAに保険を頼んできた。そういう場合は10億円に対して0.3%~1.5%の間のレンジで掛金、プレミアムを取ります。最長20年間保証いたします。そういう保証をすることによって、民間の発展途上国への資本導入を促進させようというのが、MIGAの設立された第1番目の理由であります。

もう1つの理由があります。これは発展途上国にアドバイスをやる、発展途上国のコンサルタント業務をやることであります。先進国の民間の発展途上国への直接投資を促進するために、発展途上国の良きコンサルタントになって、発展途上国側にたつて、先進諸国の民間の投資を迎え入れるべく、いろんなアドバイスをしていくこと。いふならばこの2つがMIGAの仕事であります。

## 《保証の内容》

発展途上国に投資をする場合、もっと具体的にいうとMIGAは次の4つの場合に保証します。話をわかりやすくするためにあえて固有名詞を使いますが、実際にあった話ではありません。日産自動車がジャカルタに投資をしたいとします。MIGAはまず日産自動車が希望するのであればtransferの保証をいたします。transferというのはどういうことかといいますと、送金のことです。配当金はジャカルタの現地通貨で取ってもらえないので、日産自動車がどうしても円で取りたいという。10年たっても20年たってもどんなことが起こっても円で取りたいというときにMIGAはこれを保証いたします。インドネシアと政権が5年たつて全くがらりと変わって、日産自動車がジャカルタに投資した時点では円で送金することを許していた政府が、急にだめということになった場合は、円でMIGAが日産自動車に支払います。これが1つ。

2番目はインドネシアがなるべく日産自動車とか或いはトヨタ自動車の投資を歓迎するために優遇します。税制面で或いはいろんな他の面でという約束をします。ところが5年たち10年たつたら政府が変わってしまつて、前の政府がどういう約束をしたか知らんけれども、俺たちはもうそんなことはごめんだということで、インドネシア政府と日産自動車との間に一旦取り交わされた約束を、一方的にインドネシア政府が破棄します。そういう事態が起こったときはMIGAが直ちに保証して、それによって受けた損害を日産自動車に支払います。

3番目は収用という言葉を使うんですが、何かの理由でインドネシア政府が日産自動車のジャカルタにある工場とか土地を取ってしまう。日産自動車がどんなに懇願しても返さない。こういう場合にMIGAが日産自動車の受けた損害を支払います。

4番目にもしその国に革命が起こった。或いは戦争が起こった。日産自動車のジャカルタ工場が全部取られてしまったという場合に保証します。日産自動車がなるべくそういうことが起こらないように、MIGAとしてもそんなことがしょっちゅう起こつたら保険金を払って行くわけですから大変なことになりますので、インドネシアをMIGAのメンバーに引きずり込むわけです。今、48か国のメンバーがMIGAにあります。インドネシアもそのメンバーの中の1つです。そしてインドネシア政府としては自分がやった不始末のために日産自動車に支払われる金額というのは、その一部は自分が支払っている資本金の中からMIGAが出すわけですから、非常に矛盾を感じるはずであります。

## 《MIGAの加盟国》

MIGAのメンバー加盟国の中にはPart IとPart IIと分かれておりまして、Part Iというのは先進国でPart IIが発展途上国なんですが、1つの国が不始末をしでかしたことによって、他の発展途上国が俄然冷たい視線で不始末をした国を見る。だから牽制作用というかお互いに牽制しあうような作用がある。そこにマルチという多数国で、誰かが一人不始末をしたら尻拭いは皆でやらなければならないという考え方、また不始末をした国は皆から爪弾きをされる、そういうからくりがMIGAの中にあるわけでありまして。

今、世界銀行というのは151か国がメンバーでありまして、まだソ連はメンバーではありません。東欧圏は社会主義圏国家でも相当メンバーが入っておりますが、ソ連はメンバーではありません。それからスイスもメンバーではありません。スイスは中立を常に誇っておりますから、世界銀行のメンバーにはなっておりません。しかしながらソ連とかスイスを除いての151か国というのは、去年のソウルオリンピックの参加国が160ぐらいでしたから、殆ど全世界が世界銀行に入っているといつて過言でないと思います。今、MIGAのメンバーは48あります。48の中にスイスがすでにMIGAのメンバーになっております。ですからもし将来3年先に全ての国がメンバーになるとすれば、MIGAが152で1つだけ世界銀行よりもメンバーの数が多くなるわけですから、そういう意味ではメンバーの数からいうと世界最大の金融関係の国際機関ということになるわけでありまして。

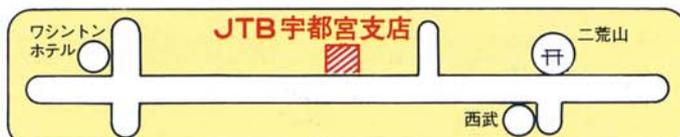
非常に退屈なMIGAの話をして申し訳なかったんですが、とにかく今僕が申し上げたことは全部忘れてしまつてもかまいませんが、たった1つだけ南北問題、南の国の問題を解決しないと必ずそのとばかりは日本にもやってくる。日本のこの強い経済は永久に続くものではない。何とかしなきゃならないという、それだけでいいからそれだけでいいから、忘れないでいただきたい。

(次号に続く)



**JTB** For Your Travelife

国際親善・友好交流のご相談・企画は  
JTBへご用命下さい



お申込み、お問い合わせは…

**JTB 宇都宮支店**

日本交通公社 運輸大臣登録一般旅行業第64号

一般旅行業取扱主任者 茂木 功

宇都宮市馬場通り1-1-8 〒320

**TEL. 0286-22-1805**

